

スギの採卵

安井理奈・近藤忍・立津政吉

1. 目的

スギの養殖用種苗の生産に必要な受精卵を得ることを目的とした。

2. 材料と方法

採卵には、屋内100kℓ水槽1面(内径7.36m、深さ2.6m)を用いた。

採卵親魚は、平成18年に当栽培漁業センターで種苗生産し、養成した10尾を使用した。採卵親魚の大きさは、全長98～124cm、体重13.0～29.1kgで、雌雄比は不明であった。

平成21年5月13日に13尾の親魚を海面生簀から100kℓ水槽へ陸揚げ・収容したが、後に3尾斃死した。100kℓ水槽での飼育は、8月3日まで行い、その後、生簀へ沖出した。

陸上水槽で飼育した間の餌料は、ムロアジ、ヤマトミズンなどの冷凍魚と冷凍マツイカを解凍後、総合栄養剤を適量添加して給餌した。給餌は原則として週3回(月、水、金曜日)行なった。

魚病予防対策として、水槽の水位を毎日午前中に低水位(水量 25kℓ内外)にして換水率を高め、午後には通常水位に戻した。換水率は、低水位時で24回転/日程度、通常水位時で4～5回転/日程度とした。また、飼育水中の銅イオン濃度が50ppb程度になるように銅イオン発生装置を適宜作動させて白点病やハダムシ寄生を予防した。

飼育期間中(5月13日から8月3日まで)の水温は、23.6～29.2 で推移した。また、産卵時の水温は、28.1～29.1 の範囲であった。

産出された卵は、表層水をサイホンで抜き取り、採卵槽に設置した採卵ネット(網地の目合い10.72mm、大きさ約60cm×約70cm×約80cm)で濾して採取した。サイホンには内径38mmのホースに塩化ビニールパイプを取り付けたものを 7 本用いた。採卵ネットは、6月25日から7

月 25 日まで設置した。

採卵重量は、採卵した卵を計量用のネットで濾して海水を切り、電子秤で計量して求めた。

3. 結果及び考察

産卵の数日前から、繁殖行動と考えられる盛んな追尾行動が観察された。

産卵は、7月2日、7月26日、及び7月29日の計3回あった。7月2日は、6,805gの受精卵が得られた。平均卵径は1.30mm、正常卵率は91.7%で、上質卵であったことから種苗生産に供した。7月26日と29日は、採卵ネットを設置しておらず、産卵量は不明であった。

